

阿賀野川流域におけるSDGsを3つのパネル作品を通してさぐる



公害編
2024年制作

阿賀野川流域地域 水と大地のSDGsをさぐる

流域が新潟水俣病に向き合い、乗り越えるために

- 新潟水俣病が阿賀野川流域にもたらした被害や影響について、その複雑な経緯をたどった歴史を紐解きます。

流域とSDGs / 阿賀野川流域における新潟水俣病の概要をつかむ / 阿賀野川流域における新潟水俣病の歴史をたどる①～③…など



大河編
2023年制作



大地編
2025年制作
予定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Sustainable Development Goals エスディー・ジーズ 持続可能な開発目標 (SDGs) とは？

持続可能でよりよい世界の実現を2030年までに目指す国際目標のことで、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択されました。

「安全な水…を世界中に」「質の高い教育をみんなに」など、左図に掲げられた17の目標(Goals)の達成により、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、すべての国々で取り組むべきとされています。

◀17のゴール(※18個目のアイコンは、SDGsを表すカラーホイール)

過去の作品(一部)のご紹介

展示を希望される方や団体には、無料で貸し出しております。
詳しくは右記までお問い合わせください。

お問合せ先



一般社団法人

あがのがわ環境学舎

〒959-2221 新潟県阿賀野市保田 3866 番地 | TEL&FAX 0250-68-5424



貴重な写真などから
昭和30～40年代の日本、高度経済成長の光と影
～躍進する日本経済の陰で、四大公害が投げかけた問い～



貴重な写真などから
阿賀野川の川業が盛んだったあの頃
～川業の隆盛と衰退、新潟水俣病の影、阿賀野川の現在～



貴重な写真などから
阿賀野川上流域を巡る近代産業の変遷
明治・大正・昭和～近代産業がたどった光と影の縮図



懐かしい写真で振り返る
阿賀野川・光と影の近代ものがたり
～イザベラ・バードから近代産業まで～



阿賀野川と銅山、ダム、そして高度成長の果てに
～大河と近代産業が織りなした光と影～



阿賀野川と大地が織りなす光と影【後編】
～大河と共に生きてきた半農半漁の地域～



阿賀野川と大地が織りなす光と影【前編】
～大河と共に生きてきた松浜・横越～



阿賀野川と共に生きたあの頃
～風土と歴史が織りなす光と影～



鹿瀬・昭和電工・阿賀野川
～光と影を織りなしてきた歴史～



草倉銅山の光と影
～鉱山に魅せられた人々～



阿賀野川
えとこたプロジェクト

正式名称「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称「FM事業」)。阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい流域づくり」を目指して始まったプロジェクト。